

施策名	科学に関する重要事項の審議及び研究の連絡		担当部局名	日本学術会議事務局
施策の概要	各学術分野における様々な課題や社会が抱える特に重要な課題について、日本学術会議会員及び連携会員で構成する委員会等を設置、開催して、科学に関する重要事項の審議を行うことにより、政府からの諮問に対する答申、政府に対する勧告、その他政府、社会に対する提言等を行う。		政策体系上の位置付け	科学に関する重要事項の審議及び研究の連絡
施策の目標 (最終アウトカム)	わが国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させること。		事後評価実施予定時期	令和3年8月 (複数年度評価)
「施策の目標」の設定の 考え方・根拠	日本学術会議法第2条、第3条	施策に係る内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	—	

※ 数字に○を付した指標は主要な指標

定量的指標	測定指標	基準値	基準年度	目標値	目標年度	施策の進捗状況(実績値)					測定指標の選定理由及び目標値・目標年度の設定の根拠
						H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	
①	学術フォーラムの参加者アンケートで肯定的に評価した者の割合(平均値)	85%	-	85%以上	令和元年度	87%	88%	88%	88%	91%	学術フォーラムは、科学的・学術的な研究成果を国民に還元するための活動として開催している事業である。アンケート結果を測定指標に掲げ、その実績値を分析することが内容改善の一助となると考えられるため、アンケート結果を測定指標に掲げた。なお、目標値はこれまでの実績値を勘案して設定した。
②	地区会議公開講演会の来場者アンケートで肯定的に評価した者の割合(平均値)	85%	-	85%以上	令和元年度	87%	84%	85%	90%	89%	地区会議公開講演会は、科学的・学術的な研究成果を国民に還元するための活動として開催している事業である。アンケート結果を測定指標に掲げ、その実績値を分析することが内容改善の一助となると考えられるため、アンケート結果を測定指標に掲げた。なお、目標値はこれまでの実績値を勘案して設定した。

参考指標	年度ごとの実績値					参考指標の選定理由
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	
1 共同主催国際会議・国際シンポジウムの開催回数	9回	11回	6回	9回	6回	日本学術会議の国際活動のうち、共同主催国際会議・国際シンポジウムの開催は活動の一つの柱であり、その活動状況を測る一つの参考指標として、会議の開催回数を掲げた。
2 学術フォーラムの開催回数	8回	6回	6回	5回	11回	学術フォーラムは、科学的・学術的な研究成果を国民に還元するための活動として開催している事業であり、その活動状況を測る一つの参考指標として、開催回数を掲げた。
3 地区会議公開講演会の開催回数	8回	8回	8回	9回	6回	地区会議公開講演会は、科学的・学術的な研究成果を国民に還元するための活動として開催している事業であり、その活動状況を測る一つの参考指標として、開催回数を掲げた。

施策に関連する事業 (開始年度)	令和元年度行政事業レビュー 事業番号	予算額・執行額(単位:百万円) (上段:予算額、下段:執行額)			当初予算額 (単位:百万円)	事業の概要
		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	
1 各国アカデミーとの交流等の国際的な活動(昭和23年度)	0134	195	204	202	197	各国アカデミーとの交流や国際学術機関への対応を行い、国際的な場面での我が国の科学者の立場の表明や、世界の科学・技術の潮流に接する機会を持つことにより、我が国の科学者の地位向上や、学術分野における国際社会で我が国が名誉ある地位を占め、世界をリードする立場になるよう、寄与している。
		180	188	168		
2 科学の役割についての普及・啓発(昭和61年度)	0135	3	4	4	6	日本学術会議会員等による講演・パネルディスカッションを内容とする学術フォーラムを開催することにより、学術成果の国民への還元を図っている。
		3	3	3		
3 科学者間ネットワークの構築(昭和24年度)	0136	8	8	8	8	全国7ブロックで地区会議を開催し、その中で行われる地区会議公開講演会を通じて日本学術会議が集積した研究成果や学術情報の提供を行うとともに、地域の科学者との意見交換の場を設けることで、科学者間ネットワークの構築に寄与している。
		6	6	5		
計		206	216	214	211	
		189	198	176		